

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援施設 たいよう		
○保護者評価実施期間	7年 2月 10日		7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	7年 2月 10日		7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 24日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アットホームな雰囲気大切に、児童が安心して過ごせる環境を提供している。また、自然遊びやクッキング・季節ごとのイベントなど、楽しみながら成長できる機会を提供している。	児童の体調や気分に合わせ活動内容を調整したり、無理のない支援を心がけている。また、避難訓練を定期的の行い、万が一の災害時にも対応できるよう訓練を行っている。	買い物体験や困った時の対応など、生活で役立つスキルを身に付ける機会を提供していく。不審者対応訓練などを取り入れ、安全対策をより強固にする。
2	外出支援を通じて、社会性を育む機会を提供している。	お友達同士の関りを促進するため、ペア活動や協力ゲームを取り入れている。	積極的に外出支援の機会を作り、様々な経験をさせ楽しみを見出させて行く。
3	連絡帳を通して、保護者との情報共有を密に行っている。	職員間の情報共有や保護者とのこまめな情報共有を図るよう努めている。	事例検討会などを開催し、職員間で知識を共有しながら支援の質を向上させる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎時の安全対策を更に徹底していく。	地域資源をうまく活用できていない。	地域のイベントに積極的に参加し、児童が社会と関わっている機会を増やせる様、取り組む。
2	社会体験や職業体験など、実践的な活動が不足している。	研修や学習などの機会が不足しており、最新の支援方法や技術を学ぶ機会が少ない。	スタッフ間で役割をグループ化し、明確にすることで業務の効率化を図っていけるよう取り組む。
3	個別支援計画の見直し期限通りできず、遅れることがある。保護者が支援内容を十分に理解していない場合や、連絡帳がうまく活用されていない事がある。	個別計画に関しては、更新や見直しが遅れがちになっている。児童の状態や変化をリアルタイムで共有できておらず、職員間での情報共有の課題がある。また、学校との連携不足で、児童が混乱することがある。	個別支援計画の質を向上させるために、3ヶ月ごとの計画見直しを行い、適切な対応ができるように務める。保護者の相談会や勉強会を開催し、児童が社会と関わっている機会を増やせるように務める。